



最新の研究成果と研究者を簡単検索。
生産者と研究成果とを未来へ繋ぎます。

アグリサーチャー

検索

アグリサーチャーから 農業者と研究者の連携が生まれています 研究成果を活用して病害を克服

- 静岡県在住のミニトマト生産農家の中村さんは、アグリサーチャーを活用され、自ら研究者に連絡してトマト青枯れ病等の対策に土壤消毒の新技术を導入されました。
- 農研機構の研究者と中村さんが密接に連携された結果、今年は昨年発生した病害が見られない等、大きな成果が得られました。
- 農研機構の研究者は、今も中村さんのほ場を訪ね、効果の確認や現場での問題点について相談に乗っています。



技術の効果を確認する農業者(中村さん)と農研機構の研究者

アグリサーチャーは農業者と研究者の出会いを支援しています
現場課題の解決に新技术をご活用下さい

今月の研究成果トピックス (アグリサーチャーHPより)

環境への負荷がより小さい低濃度エタノールを用いた 低コストの新規土壤消毒法

エタノールを水で薄めて畑土壌が湿潤から湛水状態になるまでかん水処理した後、農業用ポリエチレンフィルムで土壌表面を覆い、2週間以上放置するという簡便な技術で、新しい土壤消毒技術として実用化し、普及が進められています。



図1 低濃度エタノールを用いた新規土壤消毒法の概要
エタノール水溶液を湛水状態になるまでかん水処理した後、土壌表面を農業用ポリエチレンフィルム等で被覆し放置する簡便な方法です。

研究機関: 農研機構
農業環境変動研究センター
研究者: 小原 裕三 他4名

■ [研究成果はこちら](#)

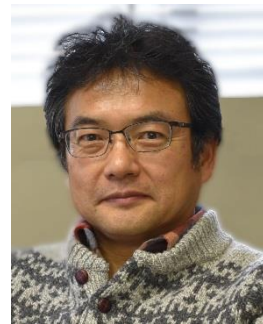


※掲載の研究成果では希釈濃度が2%と記載されていますが現在は1%以下で実施しています。

研究者の声 小原裕三さん（農研機構農業環境変動研究センター）

今回、私たちの研究成果が現場で活用され、収量の回復から経営改善につながって非常に嬉しいです。しかし、地域の気象や施設のタイプ、処理時期等により期待どおりの成果が得られない事例もあり、原因の調査と改善策の検討を続けています。技術を現場へ普及させ、経営改善に役立つためには長期間かかりますが、少しでも現場の皆さんのお役に立ちたいと思います。

■研究者情報は[こちら](#)



■前頁の技術を活用された農業者の声 （静岡県ミニトマト農家中村さんより）

技術導入前のH29年11月から現在に至るまで、農研機構の研究者から非常に手厚い技術指導を受け、様々な点で相談に乗ってくれたので、本当に心強かったし、感謝しています。今後は地域でもこの土壌消毒方法を広め、より良いミニトマトを作っていきたいです。

■Webアクセス情報（2018年11月） 訪問者数：8,260名（累計：211,119名）

■イベント情報

- ・つくば医工連携フォーラム2019
平成31年1月25日(金) 茨城県つくば市
- ・革新的技術開発・緊急展開事業
露地野菜公開シンポジウム
「露地野菜生産現場の現状整理と今後の展開」
平成31年2月4日(月) 東京都千代田区
- ・第1回果樹生産システム研究開発プラットフォーム
総会・セミナー
平成31年2月6日(水) 茨城県つくば市

このほかの情報は[こちら](#)



予告

スマホからより手軽に研究成果・研究者を検索！
LINE版アグリサーチャーが来年1月中旬からスタート



LINE版のイメージ

- ・キャラクターとの会話を通じて研究成果や研究者の情報を提供。
- ・カテゴリ検索、フリーワード検索や絞り込みが簡単です。
- ・研究成果の閲覧ランキングやイベント情報、動画も紹介。

※入札公告の結果、株式会社ベーシック（東京都新宿区）に委託して開発中